

墨の獅子舞

伝承者 墨獅子舞保存会

県指定無形民俗文化財（昭和四十二年三月七日）

墨の獅子舞は、享保十九年（一七二四）墨村の鎮守六所神社の社殿を新築し、その遷宮式に奉納のため、出羽国羽黒山から師を招いて伝授されたのが始まりと伝えられています。五穀豊穰・干天の雨乞いの祈願をかけて春秋二回、区内神社と区長宅で演舞されてきましたが、中絶の時代もありました。大正十五年再開されてからは毎年七月十五日、六所神社と区長宅の二か所で演舞されるようになり現在まで続いています。

その種目は、「足揃え」・「芝獅子」・「剣の舞」・「猿獅子」の種目が伝承されています。獅子3、猿1、笛、大太鼓、小太鼓という構成です。三匹獅子舞で念仏とお練りが伴うことが特徴です。古い伝統をよく伝承している郷土芸能として、昭和四十二年三月七日、県無形民俗文化財の指定を受けているほか、房総の魅力五百選にも選ばれています。

風祭「墨の三匹獅子舞」

この墨の獅子舞は、古くは「風祭」とも言われたそうです。

この獅子舞の見所は華やかな万灯を先頭にした「お練り」と「念仏」など独特の要素が加わった三匹獅子舞です。「念仏」の歌の内容は、穢（けが）れを祓

（はら）う歌だそうです。

最後に獅子舞の家をほめる「ほめ言葉」が、区長宅で行われます。

かつて、舞い手は少年だったそうですが、今は、舞い手も次第に高齢になってきており、次世代への伝承が今後の課題となっており、墨区獅子舞保存会を組織して演技伝承につとめています。

墨区獅子舞

（神社、寺、区長宅で舞う祭に念じられる念仏）

- 一、 千早降ル神ノ鳥居ヲ通ル時ハ
忌ミモ穢レモ突キ失セルケリ （神社）
- 二、 ナイ竹ヲ七節揃エテ
之ヲ神ノ祝イトスル （神社）
- 三、 大寺ノ香ノ煙ハ細ケレド
天ニ上ガリテ黒雲トナル （寺）
- 四、 名主様ハ巧妙ガナル人ナレバ孫彦揃エテ
百万石ノ御支配ナサル （区長宅）